

課題番号	応募者名	事業名	評価者の主なコメント	評価者のコメントに対する回答
J1906	東京ガス株式会社	生ごみ等廃棄物系バイオマスからの高品質エネルギーのカスケード利用技術開発	現時点では実用化への道すじが十分には見えない。変動のあるインプットに対してある程度安定した成果を得ている。	ご指摘頂きましたとおり、実用化に向けて、これから各種課題克服の取り組みを行います。基本技術はある程度確立したと考えており、実用化に向けてエンジニアリングの課題に集中的に取り組んで参ります。
			目標についても明確で達成度もよい。排水の問題はあるが水素発酵－メタン発酵よりもはるかに評価できる。	本事業において、目標を上回るエネルギー回収効率を達成することができました。実用化に向けて、更に高効率なシステム開発を続けていく所存です。
			排水処理、残渣処理のあり方を検討すべき。	ご指摘の通り、メタン発酵の排水処理、残渣処理は大きな課題であると認識しております。今回の実証試験は小規模であることから、排水を構外に出して処理を行っておりますが、事業化規模である20ton/日以上処理量のプラントでは、構内で排水処理を行う前提で、技術的な検討と経済的な試算を行っております。
			受入ごみが限定されるなど、施設改良・実証が求められる。	ご指摘頂いたとおり、今回の設備は小規模であり、分別がなされていないごみは人力で分別を実施したため、受け入れごみによって作業時間が延びる傾向があります。実用化規模においては、機械的に分別を行う市販の装置が数多く出ており、既存技術で対応できると考えております。
			生ゴミの酸発酵、糖化、アルコール発酵、メタン発酵の組み合わせが興味深い結果が出ているが、給食が休みのときなどは都市ガスを活用するなど、柔軟なエネルギー利用が必要である。	生ごみのアルコール/メタン2段発酵により、効率的にエネルギーを回収するシステムを実証できました。原料が確保できない時には、都市ガスを利用して安定的にエネルギーを供給できるようなシステムを整えております。
			アンモニア対策と考慮すれば今後期待がもてる。	本事業ではアルコール発酵に焦点をあて、簡易なメタン発酵装置を使用しております。今回のメタン発酵の条件は、通常の生ゴミのメタン発酵と同等であるため、他のアンモニア対策の技術が十分適応できるものと考えています。なお、本試験ではアンモニアは阻害濃度には達しませんでした。今後の事業化に向け、アンモニア阻害対応技術の検討も行っていく予定です。
			バイオガスを都市ガスに使用できないか研究をしている。	バイオガスの都市ガス導管への受け入れは、技術的には問題なく行うことができます。受け入れ条件について、東京ガスは下記のHPに「バイオガス購入要領」を記載しております。 <a href="http://www.tokyo-gas.co.jp/biogas/biogas_youryou.pdf">http://www.tokyo-gas.co.jp/biogas/biogas_youryou.pdf</a> 受け入れ条件は、下記HP記載の「託送供給約款」に準じております。 <a href="http://www.tokyo-gas.co.jp/takusou/pdf/kouri080415-02.pdf">http://www.tokyo-gas.co.jp/takusou/pdf/kouri080415-02.pdf</a>